第七講・説明的文章③

◆文章の構成

それぞれの段落の役割をとらえ、段落と段落の関係をつかむと、筆者の説明しようとしていることがはっきりします。

(1) 話題を述べる段落

ふつう、文章の初めにあります。

(2) 前の段落の内容と同じようなことを付け加えて述べる段落

「また」「そして」「さらに」などのつなぎことばに注意します。よく前の段落と結びついて大きな意味段落を作ります。

(3) 前の段落の内容とは反対の内容を述べる段落

「しかし」「ところが」などのつなぎことばに注意します。

(4) 前の段落の内容の具体例を述べる段落

「たとえば」などのつなぎことばに注意します。

(5) 前の段落の内容をまとめ、言いかえる段落

「つまり」「要するに」などのつなぎことばに注意します。

(6) 前の段落の内容とは別の話題の内容を述べる段落

「ところで」「さて」などのつなぎことばに注意します。文章の大きな切れ目となり、前の段落と結びつくことはありません。

※多くの文章では、それぞれの形式段落が(1)〜(6)のような役割をもちながら前後の段落と結びついて意味段落を作り、その意味段落全体がまた前後の意味段落に対して(1)〜(6)のような役割をもつというような複雑な関係になっています。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（1～15は段落番号を表します。）

1 法隆寺大工の*1棟梁から弟子へ、そのまた弟子へと受けつがれてきた*2口伝は、自然を知りつくした、むかしの職人たちの知恵といえます。

2 たとえば「①用材は木を買わず山を買え」という教えがあります。

3 同じヒノキでも、環境によって、育ち方はまったくちがってきます。地域によって、土壌もちがうし、季節ごとの気候や温度もちがいます。それが木の育ち方や、木材としての質のちがいにもなるのです。

4 だから、お堂や塔を建てるときには、あちこちの山からの木をつかうのではなく、ひとつの山に育った木をつかったほうがいい。一本一本にくせのちがいはあっても、ぜんたいとして木の力がそろっているほうがいいからです。それが「木を買わず山を買え」という言葉になっているのです。

5 「木組みは寸法で組まず木のくせで組め」という言葉もあります。

6 木は、人間と同じように、一本一本特徴というかくせがある。だから、そのくせをしっかり見てつかわないといけないという教えです。

7 同じくらいの太さをもったヒノキでも、生えている場所の風向きなどによって、右によじれようとするくせのついた木もあれば、左によじれようとするくせのついた木もある。それを無視して、右によじれる木ばかりをつかうと、建物ぜんたいが右によじれてしまいます。

8 では、よじれる木はつかえないのかというと、そんなことはありません。右によじれる木と、左によじれる木を組み合わせてつかう。そうするとおたがいのくせがかえって生きてきて、建物を強くささえることができるのだそうです。

9 また、山の中腹より上で育った木は、雨風にさらされてくせがある。くせがあるかわりに芯が強いから、柱など建物をささえるところにつかうの

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

に適しているといいます。

10 ところが、谷で育った木は、雨風にさらされないから、くせがない。素直なかわりに弱いから、柱にはできない。木目がそろっているから、天井とか化粧板につかうといいというのです。

11 たったひとこと、ふたことの言葉のなかにも、むかしの職人たちが、自然を深く知りつくしてきたことがうかがえます。

12 法隆寺の大修理にもたずさわった、西岡常一さんという、*3宮大工の棟梁は、「②千年の木なら、千年のくせがついている。そのくせを知り、くせにあったつかい方をすれば、木造建築物は、千年は充分にもつ」といっています。けれども、くせを無視してみな同じつかい方にしてしまうと、千年もつものも、もたなくなってしまうというのです。

13 法隆寺ができた飛鳥時代から受けつがれてきたこんな口伝は、自然とともに生きてきた職人たちの知恵です。木を育て、森を守り、そして山を大切にしてきた、むかしの人たちの知恵です。

14 でも、木を知りつくした職人たちの知恵や技術も、修理につかう木がないとなると、やがては消えてしまうことになります。千年以上もむかしから受けついできた口伝も生かしようがないのです。

15 これは、法隆寺だけの問題でありません。日本じゅうの由緒あるお寺や神社がかかえる大きな問題です。お寺や神社だけではありません。お城や橋など、立派な木造建築物が日本にはたくさんあります。その修理につかえる大きな木が、なくなってきているのです。

（立松和平『古事の森』）

＊１棟梁＝大工の親方。
＊２口伝＝師が学問や技芸の大切な内容を口で伝えて教えること。その教え。
＊３宮大工＝神社やお寺の建築や修理をせんもんにする大工。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　第[1]段落とほぼ同じ内容を述べている段落をさがし、段落番号で答えなさい。

□

問二　――線①「用材は木を買わず山を買え」という教えは、どんなことを重視しているのですか。「～こと」につながる十七字のことばを文中から書きぬきなさい。

□□□□□□□□□□□□□□□□□こと

問三　木と、木が育った環境の関係をまとめた下の表の(1)～(4)にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

木が育った場所	環境	木の性質	つかうのに適する所
山の中腹より上	雨風にさらされる	(2)	(3)
谷	(1)	くせがなく素直だが、弱い	(4) 天井や

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

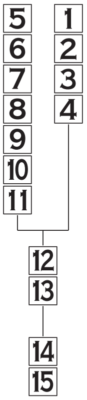
問四　――線②「千年の木なら……千年は充分にもつ」とありますが、「くせにあったたつかい方」をするとは木をどのようにつかうのですか。

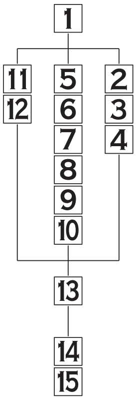
□

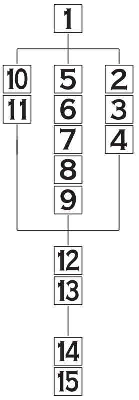
問五　この文章で筆者が述べようとしていることをまとめた次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

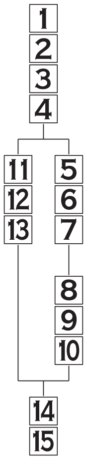
法隆寺など木造建築物の□□につかえる□□□□がなくなってきており、このままでは□□□□□□□□職人たちの受けついできた知恵や技術が生かせなくなってしまう。

問六　この文章の段落と段落の関係を図示(ずし)したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア


イ


ウ


エ


□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　説明的文章③

一題目

問一　13

問二　ぜんたいとして木の力がそろっている（こと）

問三
(1) 雨風にさらされない
(2) くせがあるかわりに芯が強い
(3) 柱など建物をささえるところ
(4) 化粧板

問四　（例）くせが生きるように組み合わせてつかう。

問五　修理・大きな木・木を知りつくした

問六　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。